

3. 活動方針

日本風景街道「伊勢熊野みち」推進協議会の取組は、世界遺産熊野古道「伊勢路」、そして地域の移動経路である国道42号や311号などのほか、峠と峠を結ぶまちなかの道までを対象ルートとして設定しています。そして、これらの「みち」を舞台として多様な主体による協働のもと、地域資源を活かしながら風景の形成、地域の活性化、観光の振興を図っていくことが求められます。

一方、日本風景街道「伊勢熊野みち」推進協議会を構成する活動団体においては、これまでも各種の地域活動を実施しており、今後も風景街道の活動として取組メニューを実行していきます。

そのため、日本風景街道「伊勢熊野みち」推進協議会としての取組を実行していくための活動方針及び取組テーマなどは、この推進協議会の構成団体における活動を参考に協議し、主な取組メニューを整理してとりまとめています。

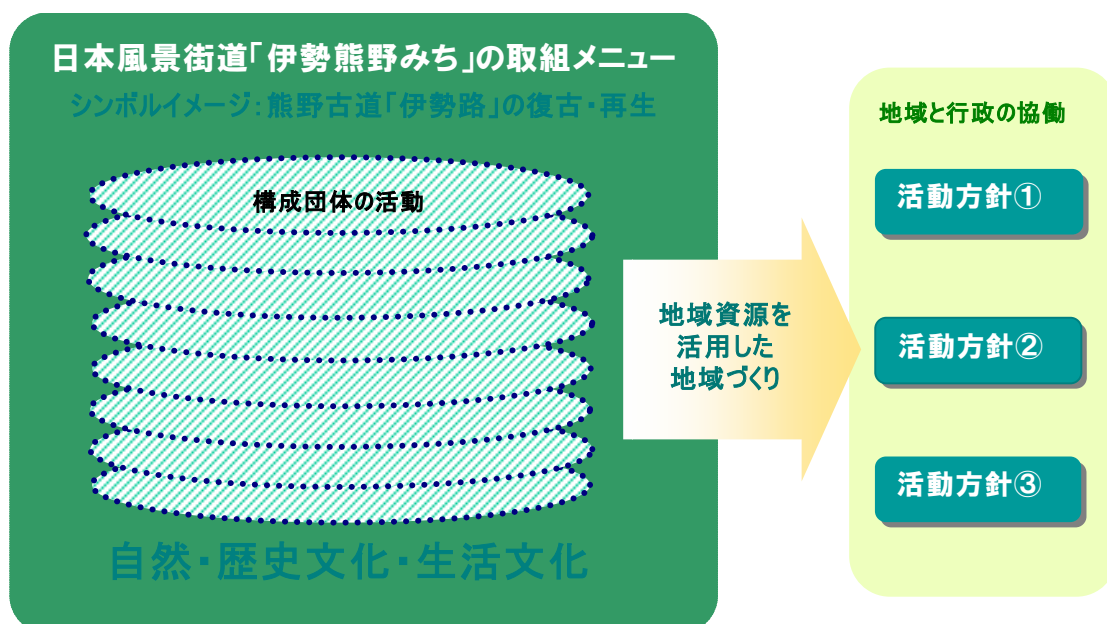


図3 日本風景街道「伊勢熊野みち」の活動方針の設定イメージ



ツズラト峠からの眺望（写真提供：伊勢志摩きらり千選HP）



魚飛溪

日本風景街道「伊勢熊野みち」推進協議会の取組を実行していくための活動方針として、構成団体の取組メニューを整理し、以下に示す3つの活動方針をまとめました。

この3つの方針のもと、「美しい道づくり」と「地域づくり」の実行が具体化され、推進協議会の一体感が高まり、各構成団体による活動が広く連携していくことで、この地域全体の魅力がさらに増していくものと考えます。

■ 日本風景街道「伊勢熊野みち」の活動方針

① 「みち」からみえる風景づくり

山、森、川、海などの紀伊半島の豊かな「自然」を満喫できる「ドライブルート」や熊野古道をはじめとする地域の歴史や文化、暮らしにふれあえる「ウォーキングルート」など、多彩な「みち」を活用しながら世界遺産のある地域にふさわしい風景づくりを進めます。

② 訪れる人との交流づくり

「自発的な行動で自分たちの地域を魅力的にする」ことを基本とし、この地域における「癒しの原風景」や「もてなしの心」を育みながら、地域主体の地域資源を活かした交流づくりを進め、「住みたくなる地域」、「訪れたくなる地域」を創りあげていきます。

③ 広域的なつながりづくり

熊野古道を軸として伊勢と熊野を結ぶことで地域内の連携を強めるとともに、三重県、和歌山県、奈良県のつながりを具体化していき、全国の日本風景街道の指定ルートとの情報交換や地域内外への情報発信を通じて、全国的なつながりに発展させていきます。



便石山（象の背）



紀伊の松島



熊野古道（馬越峠）